出水ツルの越冬地

いずみつるのえっとうち

湿地のタイプ：河口域、季節的に冠水する農地

位置：北緯32度6分、東経130度16分／標高：－1.8～10m／面積：478ha／湿地のタイプ：河口域、季節的に冠水する農地／保護の制度：国指定鳥獣保護区・特別保護地区、河川区域、国指定天然記念物／所在地：鹿児島県出水市／登録：2021年11月／国際登録基準：2、4、5、6／EAAFPネットワーク参加地

上空から見た越冬地

初夏の越冬地

マナヅルの群れ

ツルガイド博士による説明

出水市ツル博物館クレインパークいずみ

湿地の概要：

「出水ツルの越冬地」は、出水市内を流れる3つの河川（高尾野川、野田川、江内川）が流れ込む出水扇状地の終端に位置し、これらの河川の河口に作られた干拓地と河口部の開放水域、干潮時に現れる中洲によって構成されている。

肥沃な水田地帯であり、古くから農地として保全され、主に水稲栽培が行われるなど重要な食糧生産の場である。加えて、毎年10月から3月にかけて世界に生息するナベヅルの総個体数の9割、マナヅルの総個体数の4割が渡来する国際的に重要なツル類の越冬地として知られている。

出水平野のツルと水田の一部が1952年に「鹿児島県のツルおよびその渡来地」として特別天然記念物に指定された時点では、戦争などの影響もあり、飛来するツル類は約300羽まで減少していた。その後、「出水ツルの越冬地」は、半世紀以上に渡る市民によるツル保護活動の結果、毎年1万羽以上のツルが渡来する世界でも有数のツルの越冬地として、その名を馳せている。

湿地にかかわる動植物：

「出水ツルの越冬地」の大半は農地が占めており、人工湿地として水田、葦原、干潟など多様な自然環境が保全された結果、ツル類など2万羽を超す水鳥や多くの動植物の生息を支える場となっている。

渡来するツルの中で最も数が多いナベヅル、次に多いマナヅルに加え、クロヅル、ソデグロヅル、カナダヅル、タンチョウ、アネハヅルなど、世界に生息する15種類のツルのうち7種の渡来がこれまでに確認されている。

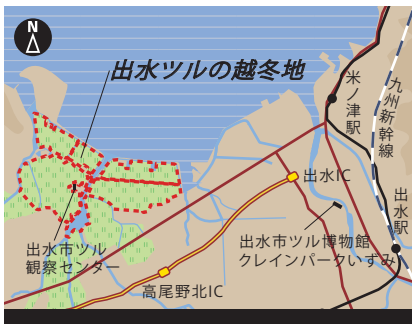
また、ガンカモ類などを含む約300種の野鳥が確認されている、日本でも有数のバードウォッチングの場所となっている。

施設や保全・管理の取組：

出水市ツル博物館クレインパークいずみはツルに特化した博物館である。地元中学校が実施するツル羽数調査の疑似体験ブースなどが展示され、また貴重な標本や研究データが集積され、ツルに関する普及啓発・調査研究の拠点施設として機能している。同博物館では観察会、湿地をテーマとした講座や講演、企画展も開催している。

出水市ツル観察センターでは、総ガラス張りの2階から、広大な農地で越冬するツルを観察することができる。出水市の小・中学校ではツルや郷土の自然環境に関する学習を行っている。また、ツルの生態や保護活動の知識を有すると認定された児童・生徒が「いずみツルガイド博士」として、同センターでボランティアガイドをしている。

出水市は、2021年に「出水ツルの越冬地」がラムサール条約湿地に登録されたことを機に、保全の指針となる「出水ラムサール条約湿地保全・利活用計画」を策定した。同市は、湿地の保全にかかる取組などが評価され、2022年にラムサール条約湿地自治体に認証された。

●関係自治体

出水市役所 Tel: 0996-63-2111